

## 欧州特許庁、Google と機械翻訳の協力に合意

2010 年 12 月 1 日

JETRO テクニカルセンター

欧州特許庁 (EPO) は、11 月 30 日、Google と特許文献の多言語の機械翻訳に関する協力について合意した旨、プレスリリースを行った。

本合意においては、EPO が特許文献を 38 の締約国の言語へと翻訳するために Google の機械翻訳技術を利用し、一方で、EPO は翻訳された特許文献へのアクセスを Google に対して提供し、Google が機械翻訳技術を最適化することを可能にするとしている。Google の機械翻訳技術は、欧州からの特許と、世界の他の地域から出願され欧州において保護を受けている特許の翻訳に利用されるが、協力関係は日本語、中国語、韓国語等のアジアの言語もカバーしている。

この協力は、企業、発明者、科学者のために目的に適った迅速で低価格の特許文献の翻訳を提供することを目的とすると共に、EU 特許に向けた決定プロセスを促進することも目的としている。EPO は欧州全域の特許を取得するための共通の入口を提供しているが、各 EU 加盟国において、権利を有効とし、必要に応じて翻訳を行わなければならない、その結果、欧州全域の特許保護を獲得するために、米国よりも多くの費用が必要とされていた。EU 特許が実現すれば、企業やイノベーターに対して発明の統一的な保護を与えることによってコストを削減し、法的安定性を向上させることが期待されている。

バティステリ長官はプレスリリースにおいて以下のとおり述べている。「EPO は、世界中から集められた特許文献において開示された最新技術について、無料の情報を提供する最も大きなプロバイダーのひとつである。特許文献のための機械翻訳ツールを開発する Google との協力関係は、発明者、技術者、研究開発チームが、彼ら自身の言語で関連する特許文献を EPO の豊富な特許情報から効果的に検索することを支援するものである。今回の Google との合意によって、EPO は世界経済の利益のために特許システムの国際的な特徴を強化させ、その質を改善する取組みの最前線に立つことができた。」

バティステリ長官は、本年 10 月 19 日に特許情報カンファレンスにおいて、特許情報における機械翻訳の重要性を強調しており、既に英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語等の機械翻訳サービスを無料で提供している EPO の特許文献検索サイト「esp@cenet」においては、本年 1 月から 70 万件以上の機械翻訳の利用が行われたことを紹介する等、機械翻訳に対する強い関心を寄せていた。

— EPO の 11 月 30 日付のプレスリリースは、以下参照 —

[EPO and Google collaborate on machine translation](#)

— EPO の 10 月 19 日付のプレスリリースは、以下参照 —

[Machine translation adds value to patent information](#)

— esp@cenet（日本語版）は、以下参照 —

[esp@cenet](#)